

叛之不朝貢、天皇於是將討熊襲國、則自德勒津發之、浮海而幸穴門、即日使遣角鹿勅皇后曰、便從其津發之逢於穴門、○中 八年正月壬午、幸筑紫、己亥、到儺縣、因以居樞日宮、

〔日本書紀二十六〕六年十二月庚寅、天皇幸于難波宮、天皇方隨福信所乞之意、思幸筑紫將遣救軍、而

初幸斯、備諸軍器、是歲欲為百濟將伐新羅、乃勅駿河國造船、已訖、挽至續麻郊之時、其船夜中無故、艫

舳相反、衆知終敗、科野國言、蠅群向西、飛踰巨坂、大十圍計、高至蒼天、或知救軍敗績之恠、

〔日本書紀二十九〕八年八月己未、幸泊瀨、以宴迹トロキ、驚淵上、先是詔王卿曰、乘馬之外、更設細馬、隨召出之、

即自泊瀨還宮之日、看群卿儲細馬於迹見驛家道頭、皆令馳走、

〔日本書紀三十〕四年二月壬子、天皇幸于腋上、觀公卿大夫之馬、

〔類聚國史三十一〕天長元年六月庚子、幸神泉苑、覽左右馬寮御馬、

〔續日本紀十四〕天平十四年八月癸未、詔曰、朕將行幸近江國、甲賀郡紫香樂村、即以造宮卿正四位下

智努王、輔外從五位下高岡連河內等四人、為造離宮司、甲申、車駕幸石原宮、己亥、行幸紫香樂宮、

以知太政官事正三位鈴鹿王、左大辨從三位巨勢朝臣奈氏麻呂、右大辨從四位下紀朝臣飯麻呂、為

留守攝津大夫從四位下大伴宿禰牛養、民部卿從四位下藤原朝臣仲麻呂、為平城留守、即日車駕至

紫香樂宮、九月壬寅朔、幸刺松原、乙巳、車駕還恭仁京、

〔百練抄七〕平治元年十二月九日夜、右衛門督信賴卿、前下野守義朝等謀反、放火上皇、○後三條鳥

丸御所、廿五日夜、主上中宮、○鳥羽皇偷出御清盛朝臣六波羅亭、

〔愚管抄五〕信賴かくしちらして、○中二條院當今にておはし、○中取すを取り參らせて、世を行て、院、○後

河を御書所と云所にすゑ參らせて、○中十二月廿五日、○平治乙亥、丑の時、六波羅、○平清盛第宅へ行幸

をなしてけり、其やうは清盛尹明に細かに教けり、

〔平治物語〕主上六波羅行幸事

觀馬行幸

行幸相遷郡地

事變行幸